

# 郷土への扉

The gateway to local history

最近の馬ブームから、馬を育てる場所にも多くの人々が訪れているそうです。昔から南九州は馬の産地として知られています。特に江戸時代、武士の数が多かった薩摩藩では、馬の放牧地である「牧」が各地で約20カ所設営され、多くの馬が育てられました。前回に続き、霧島市と馬のつながりについて紹介します。

## 九州一の福山牧

市内には春山牧と福山牧の二つがありました。春山牧は国分の春山台地周辺にあり、福山牧は福山町牧之原全体に広がっていました。特に福山牧は九州一の牧と評されました。

福山牧の始まりは、戦国大名・島津義久が惣陣が丘から台地を眺めた際に、馬を育てる好地と考えたといわれ、鹿屋から馬を移して天正8（1580）年に牧が開設されました。牧全体は周囲約13里（約52キロメートル）で、福山町牧之原・福地・福沢・川路原、国分塚脇地域という広大な敷地を誇り、馬の頭数も千〜2千頭ほどいたとされています。他

の牧の規模は平均3〜4里（約12キロメートル）、馬の飼育数も平均300頭ほどであり、福山牧だけが抜きん出ていました。

安永8（1779）年、桜島の大噴火の降灰により千頭の馬が病死し土地も使えなくなったため、牧の南部が廃止となり、この時に人が移住させられ福地・福沢村ができました。その後も多くの馬を輩出し、幕末の文久3（1863）年に牧全部が廃止となるまで283年続きました。

春山牧も時期によって場所を移し、周囲2〜3里（約8キロメートル）、飼育数は150〜400頭ほどで、福山牧より後の明治3（1870）年に閉鎖しました。

### 熱狂する馬追い

福山牧では毎年8月に馬追い行事を行いました。これは育てた2歳馬を選別し捕獲するために、※おろと呼ばれる場所へ追い込むというものです。効率良く馬を追い込むためには戦術と技術が必要で、武士にとっては模擬戦闘として軍事演習の場になっていました。落馬や馬に挟まれて死者が出ることもあり、命懸けであったようです。一方で、見物や参加者として霧島市域や鹿屋・

# 牧まぎ

都城といった近隣から1万人以上の人が集まり、時には藩主なども観覧に訪れる一大イベントでした。戦が長らくなかった平和な江戸時代では、スポーツ観戦のように盛り上がりがあったのでしょうか。

しかし、幕末が迫ると実際の戦の準備が始まります。弘化5（1848）年、広大な福山牧の高原で、薩摩藩は銃や大砲を使った大規模な軍事演習を行います。人家が少

なかつた広大な土地は、実際に火薬などを使用するのにちょうど良い場所だったと考えられます。程なく牧は廃止となり、人家も増えていったことで、当時の高原の様子は分かりにくくなりました。ただ、

現在ある自衛隊の演習地には、当時の高原の面影が残ります。

牧があつた高原なので「牧之原」。今は馬の姿はほとんど見えず、牛の姿の方が多そうです。景色も良い牧之原台地、ドライブで馬のように駆け抜けてみてはいかがでしょう。

（文責：小水流）

※馬を追い込むためのくぼ地のこと。入口が狭く、周囲を土壁などで囲んだ。



惣陣が丘からの風景